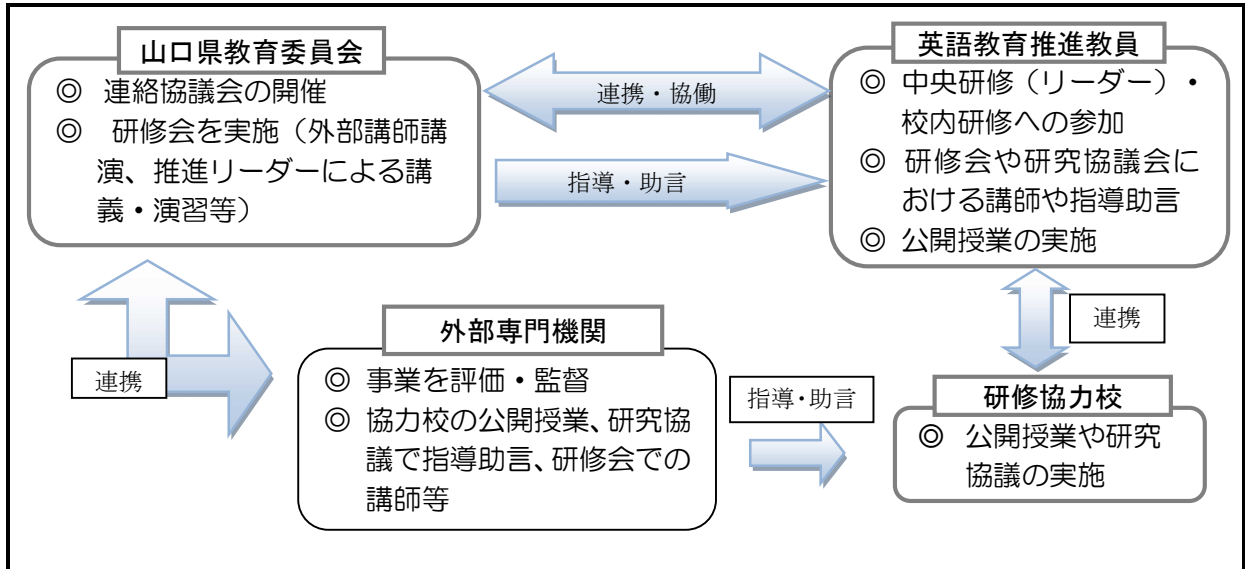


山口県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

平成 29 年度までの目標及び数値指標と目標を達成するための手立て

① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

〈中学校〉 50% 〈高 校〉 80%

県が主催する指導力向上研修会において、外部検定試験の受験に向けた研修を組み込み、引き続き英語担当教員の英語力向上を図る。その中で、外部検定試験問題を活用した演習とともに自主的な学習に活用できるプログラムの紹介等も行い、日常的に英語力を磨く方法を提供する。また、外部試験助成制度の周知を図り、外部検定試験の受験を促す。

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合 (中学校第 3 学年、高等学校第 3 学年)

〈中学校〉 50% 〈高 校〉 50%

英語教員対象の指導力向上研修等において、4 技能をバランスよく育成するための指導法についての講義・演習を行い、生徒の総合的な英語力の向上に向け授業改善を図る。そのために、外部検定試験の目標となる指標を設定し、生徒に受験を促すとともに、「CAN-DO リスト」の形式での学習到達目標を英語担当教員のみならず生徒自身が活用することをめざす。特に、研修協力校においては生徒の英語力の課題について分析し、その課題解決に向けて具体的な取組を行う。

③ 「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況 (設定・公表及び達成状況の把握等の状況)

〈中学校〉 100% 〈高 校〉 100%

【高校】 「CAN-DO リスト」の活用状況を改善し、P D C A サイクルの一層の充実を図る。特に、生徒への「CAN-DO リスト」の公開を進め、評価の規準、方法及び時期を生徒と共有し、アウトプット活動の充実及び指導と評価との一体化を促進する。

【中学】 「CAN-DO リスト」の設定率は 100% を達成したものの、全ての教員が年間指導計画や日常の授業実践と結び付けているとは言い難いところもある。引き続き、「CAN-DO

リスト」の到達目標を「指導案等に反映させる」「生徒に目標を意識させる」など、リストの活用を充実させる。研修協力校におけるリスト活用の好事例を、県全域に普及する機会を設定する。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

〈中学校〉75% 〈高校〉75%

【中学】 生徒の英語による言語活動の必要性について、教員の理解は進んできたが、教員間の温度差が見られる。研修協力校や県が指定する英語教育推進校が行う授業を地域内に公開し、生徒の活動が中心となる授業についての研修を深めていく。

【高校】 授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合は昨年度実績を上回ったが、一昨年度実績には及ばず、「教科書を教える指導」から「教科書で教える指導」への転換に課題が残っている。英語教育推進リーダーによる研修等を通じ、文法や語彙の指導における英語による言語活動の実践事例や、CAN-DO リストのより効果的な活用方法を提示しながら、英語担当教員の意識改革をさらに進めていく。

⑤ 「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの年間実施状況

スピーキングテスト	〈中学校〉 5 回	〈高校〉 5 回
ライティングテスト	〈中学校〉 5 回	〈高校〉 5 回

「CAN-DO リスト」の活用により、年間を通して計画的に言語活動を行い、「話す力」「書く力」の育成を図る。パフォーマンステストについては、単元末の活動や定期テストと結び付け、計画的・系統的な実施を進める。研修協力校や県が指定する英語教育推進校の授業研究会において、表現の技能を高めるパフォーマンステストの効果的な実施方法や評価方法について、情報交換し、精度を高める。

⑥ 授業における、英語担当教員の英語使用状況

〈中学校〉80% 〈高校〉100%

中学校のみならず、小学校においても授業の中で英語に触れる機会を増やそうという意識は高まっている。「生徒が理解または推測できる範囲の英語表現を使うこと」に加えて、「言語活動中心の授業スタイルに変えること」が教員の英語使用を増やすことにつながると捉え、県内に配置する英語教育推進教員（中央研修参加者）のモデル授業の提示や指導助言により、授業において英語を使用する機会を増やしていく。

また、小中高一貫したクラスルームイングリッシュの使用について、小中高連携英語教育推進校等で研究を進める。

⑦ 域内の全小学校における相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

〈小学校〉50%

教科指導力向上に資する研修を行うとともに英語力向上に資する研修を行い、研修に参加した教員を対象に外部検定試験による英語力評価テストの受験を促す。研修会の中では、自主的な学習に活用できるプログラムの紹介等を行い、日常的に英語力を磨く方法を提供する。

⑧ 域内の全ての学校における研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

〈小学校〉9回（年間） / 600人 / 15% 〈中学校〉9回（年間） / 420人 / 100%

〈高校〉6回（年間） / 200人 / 100%

中・高等学校においては、今後4年間で全ての英語教員が研修会に参加できるよう、また、小学校においては、600人の英語教育中核教員を養成できるよう、計画的に研修会（リーダーが行う研修実習）を実施する。さらに、研修協力校や県が指定する英語教育推進校・連携校で

の公開授業や研究協議に、県内の英語教育担当者が参加できる研修体制を整備する。研修会や研修協力校における授業研究会には、外部専門機関からの講師を派遣するなど、取組の支援に努める。

(3) 研修の体系と内容の具体

○研修の体系と内容の具体

英語教育推進リーダーは、県教育委員会の主催する研修会等において、中央研修で身に付けた指導法を、講義・演習を通して受講者に伝える。また、研修協力校や県が指定する英語教育推進校・連携校において、授業改善のための取組をリードする。(別紙「山口県英語教育推進計画(H26～30)」参照)

また、目標管理書に定めた目標を達成するために、毎年以下のような取組を行う。

(小学校)

- 小学校英語教育推進リーダー3名に加えて、県独自に小学校英語教育推進教員4名を研修協力校または英語教育推進校・連携校に配置し、小学校での英語の教科化に向け、中高の英語教育推進リーダーと協力し、各地域において校種間連携を視点を授業改善を推し進める。
- 推進リーダー及び推進教員はそれぞれの配置校や兼務校において、模範授業や指導・助言を行い、地域内の英語教育の充実を図る。その際、教員の英語指導力や児童の英語学習に対する意欲の向上について分析し、指導の改善を図る。
- 外部専門機関と連携し「小学校英語教育中核教員養成研修会」(年間4日間)を開催し、推進リーダーや外部講師による講演やワークショップ、研究協議会等を実施する。
- 参加者に対するアンケート調査や外部専門機関による評価を基に、研修会等の内容の改善・充実を図る。
- 研修会のアンケート等を通じて、英語教育担当教員の英語使用状況の実態や言語活動の実施状況及びその内容について確認するとともに、課題に応じた取組を行う。
- 英語教育担当教員の英語力を測るための英語力評価テストの受験を促し、英語力や英語指導力の向上をめざす。

(中学校)

- 中学校英語教育推進リーダー2名に加えて、県独自に中学校英語教育推進教員3名を研修協力校又は英語教育推進校に配置し、小学校での英語の教科化に向け、小学校の英語教育推進リーダーと協力し、各地域において校種間連携を視点を授業改善を推し進める。また、小学校における英語教育の高度化に伴い、授業を英語で行ったり、生徒の英語による言語活動の機会を増やしたりすることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や実践的な技能をバランスよく育成することをめざす。
- 取組が県全体の動きとなるよう、英語教育推進校を指定し、校種間連携も視野に入れた公開授業や研究協議を行う。
- 推進リーダー及び推進教員はそれぞれの配置校や兼務校(小学校・中学校)において、模範授業や指導・助言を行い、地域内の英語教育の充実を図る。その際、教員の英語指導力や児童の英語学習に対する意欲の向上について分析し、指導の改善を図る。
- 外部専門機関と連携し「中学校英語指導力向上研修会」(年間4日間)を開催し、推進リーダーや外部講師による講演やワークショップ、研究協議会等を実施する。
- 小中高連携英語教育推進校を指定し、各地域で公開授業や研究協議会を行い、県内多くの英語教育担当教員が参加しやすい環境を整備している。参加者に対するアンケート調査や外部専門機関による評価の結果を基に研修会等の充実を図る。
- 英語教育担当教員対象の外部検定試験助成制度の周知を図るとともに、教員の英語力向上の

のための研修会を実施する。（「中学校英語指導力向上研修会」に含む。）

- アンケート等を通じて英語教育担当教員の英語使用状況の実態や言語活動の実施状況及びその内容について確認するとともに、課題に対する取組を行う。

（高等学校）

- 高校英語教育推進リーダー3名を中心に、小学校における英語教育の高度化に伴う、中・高等学校における英語教育の目標と指導内容について検討を行う。中学校においても授業を基本的に英語で行うことや、高等学校においては、発表、討論、交渉等の高度な言語活動を行うことが可能となるよう、教員の指導力・英語力を向上させることを目標に小・中・高等学校の連携を図りながら研修会や協議会等を実施する。
- 外部専門機関と連携し「英語教員指導力向上研修会（高等学校）」（年間4日間）を開催し、推進リーダーや外部講師による講演やワークショップ、研究協議会等を実施する。
- 小中高連携英語教育推進校を指定し、各地域での公開授業や研究協議会を行い、県内多くの英語教育担当教員が参加しやすい環境をつくる。その際、参加者に対するアンケート調査や外部専門機関による評価の結果を基に研修会等の充実を図る。
- アンケート等を通じて英語教育担当教員の英語使用状況の実態や言語活動の実施状況及びその内容について確認するとともに、課題を分析する。
- 英語教育担当教員の英語力を測ることを目的とした英語力評価テストの受験を促し、英語力や英語指導力の向上をめざす。

（外国語指導助手指導力等向上研修）

県内のJETプログラムによる外国語指導助手約50名と小・中・高等学校の英語担当教員約50名を対象に効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸課題について研究協議を行い、本県の外国語教育の充実に資する。

第1日目（研修会Ⅰ、10月）

- 1 外部講師による講演
- 2 研修会Ⅱにおける演習の準備

第2日目（研修会Ⅱ、11月）

- 1 外部講師による講義・演習
- 2 ALT及びJTEによる演習
 - (1) ウォームアップ活動
 - (2) リスニング及びスピーキング指導について

第3日目（研修会Ⅱ、11月）

- 1 外部講師による講義・演習
- 2 ALT及びJTEによる演習
 - (1) リーディング及びライティング指導について
 - (2) マイクロティーチング

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	第1回小中高連携英語教育推進連絡協議会	未定
5月	中央研修（中学校①）（23～27日）	
6月	H27 中学校英語教員指導力向上研修会③（1日） 中央研修（小学校①）（20～24日）	英語教育推進リーダー
7月	中央研修（高等学校①）（4～8日） H27 小学校英語教育中核教員養成研修会③④（4日、25日）	（一財）実用英語推進機構/英語教育推進リーダー
8月	H27 中学校英語教員指導力向上研修会④（1日） H27-28 高等学校英語教員指導力向上研修会③④（未定）	関西大学/英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー
9月	中央研修（中学校②）（28～10/2日）	
10月	第2回小中高連携英語教育推進連絡協議会（未定） ALT指導力等向上研修会Ⅰ（21日） 中央研修（小学校②）（19～23日）	未定 未定
11月	ALT指導力等向上研修会Ⅱ（21日、22日） H28 中学校英語指導力向上研修会①（28日）	未定 英語教育推進リーダー
12月	中央研修（高等学校②）（5～9日） H28 小学校英語教育中核教員研修会①（26日）	英語教育推進リーダー
1月	H28 小学校英語教育中核教員研修会②（26日） H28 中学校英語指導力向上養成研修会②（27日） H28-29 高等学校英語指導力向上研修会①②（未定）	英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー 英語教育推進リーダー
2月		
3月		
<p>【その他の取組】</p> <p>小・中学校配置の英語教育推進教員は配置校の他に、近隣の小・中学校を兼務校とし、継続的に巡回訪問しながらモデル授業やティーム・ティーチング等を行うことにより、教員の授業力の向上及び児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の素地・基礎力の育成を支援する。</p> <p>小中高連携英語教育推進校・連携校は、地域内で日常的に連携を図り、授業公開や研究協議をして、系統的な指導の実現に向けて研究を行う。</p> <p>研修協力校は年2回授業を公開（外部専門機関からの講師を派遣）し、授業改善の方向性を地域内に発信する。</p>		

